

満洲の悲劇から銘茶産地へ

鹿児島県^{きもつぎ}肝属郡^{きんこう}錦江町田代麓^{ぼんざん}の盤山開拓は、大隅半島南部の山あい（標高500^{メートル}）に位置する。

46年7月に入植してきたのは、与論島から満州に渡り、戦後に命がけで日本に戻ってきた54戸、165名だった。

戦前から与論島は人口過密で、44年3月に満州へ入植したが、わずか1年5ヵ月で終戦を迎えた。

その頃、開拓団の若い男性たちは戦場に召集されており、残っていたのは高齢者や女性、子どものみ。日本の敗戦を知った地元の住民が土地を奪われた恨みから暴徒化し、逃げ場を失った50人もの人たちは自決を余儀なくされた。その後、46年6月に博多に引き上げるまでに40人以上が栄養失調などで亡くなられた。

与論島はアメリカの統治下にあったため戻れず、新しい土地で開拓をやり直そうという声が上がっていた。

開拓地名は、多数の同胞が犠牲になった満州の地「盤山」を忘れないようにと決まった。

開墾の方法は、木を伐採してから1～2週間して少し枯れた木と下草と一緒に焼き払う焼畑開墾。焼いた跡に野菜の種子をまくと大根も白菜もよくできた。

しかし、この地域は台風の通り道で、49年の台風では死者3名、2年後には住宅5戸が全壊。農作物の被害も甚大だったが、畦に植えていたお茶の木が台風に負けず力強く耐えていた。

このお茶が盤山開拓の救世主となった。57年に新品種「ヤブキタ」を導入し、盤山茶業振興会を結成。営農指導員に技術を教わり、62年に全国共進会で2等を受賞するなど、品質の良さを実感した。この土地は平均気温は低いが、霜も降りにくい。霧がかかりやすい条件も品質に優れた茶の生育に適していた。

60～70年代、開拓地総出で栽培面積拡大に取り組み、銘茶産地としての地位を確立した。

69年に第一の故郷与論町と田代町（現錦江町）が姉妹盟約を締結し、現在も交流が続いている。

81年に入植35周年を迎え、公民館に公園を整備し、記念碑（写真）と慰霊碑が建てられた。

内之牧地区（盤山開拓） 4 6 - 4 9 0 - 1

①調 査 日 平成 29 年 5 月 10 日

②所 在 鹿児島県肝属郡錦江町田代麓
蕃山

③地 区 の 沿 革 与論島は戦時中人口過密のため、満州国錦州省盤山県に 145 戸、635 名が移住入植したが、終戦時自決などで多くの犠牲者を出し、1946 年 6 月日本に引き揚げた。米軍統治下の故郷与論島へは帰れず、当地へ同年 7 月 18 日、54 戸 156 名が入植した。地名を盤山と名付けて入植した。最盛期は 400 人以上が暮らしたが、現在（平成 28 年 7 月）25 戸、64 人である。

④設 置 年 月 日 昭和 56 年 7 月 18 日

⑤設 置 者 元満洲国第 12 次輿論開拓団

⑥碑 文（表面）

昭和 56 年 7 月 18 日

拓魂

元満洲国第 12 次輿論開拓団

団長 伊藤 佐江吉 謹書

昭和 19 年 3 月 10 日旧満州国錦州省盤山県第 13 次輿論開拓団に 145 戸 635 名が輿論島から分村入植した敗戦前後の苛酷な状況の中で多数の人が犠牲となる 432 人が町清之進氏を団長として肉親の遺骨を抱き、はだか同然で 21 年 6 月 2 日引揚げ上陸内地開拓のため 54 戸 156 名が 7 月 18 日現在地に入植した。

開拓団長 町 清之進

副団長 池田 福利

団員 52 名の氏名が刻まれている。

⑦碑 文（裏面） 不明

⑧現 在 の 状 況 盤山公民館に隣接する公園に拓魂・入植記念碑・慰亡拓友之碑と整然と建てられている。

昭和 56 年に田代入植三十五周年に当り記念事業を計画。部落公民館前の小高い丘に入植を記念し、公園を造成、亡拓友之慰霊碑を建立、亡拓友の霊を慰めると共に苦節三十五年の入植を永久に伝えるため、入植記念碑を建立。